

令和3年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
社会福祉推進事業

ひきこもり地域支援センターにおける支援の質の向上及び
平準化を目的とした職員の養成手法に関する研究事業

報告書

令和4（2022）年3月

有限責任監査法人トーマツ

目次

第1章	調査研究の事業概要.....	1
1	調査研究の背景と目的.....	1
2	実施内容.....	1
第2章	検討委員会及び研修試行実施にかかる作業部会の開催.....	4
1	検討委員会.....	4
(1)	検討委員会設置の目的と委員構成.....	4
(2)	検討委員会の開催概要.....	5
2	研修試行実施に係る作業部会.....	6
(1)	研修試行実施に係る作業部会設置の目的と委員構成.....	6
(2)	研修試行実施に係る作業部会の開催概要.....	6
第3章	ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査....	8
1	アンケート調査概要.....	8
(1)	目的.....	8
(2)	方法.....	8
(3)	対象.....	8
(4)	調査の実施時期.....	8
(5)	調査内容.....	8
(6)	回収結果.....	10
2	アンケート調査結果.....	10
(1)	研修に盛り込まれると良いと考える内容（新任の支援担当者を想定）....	10
(2)	市区町村に向けて研修を行うことを想定した場合、国から共有される と良いと考える内容.....	12
(3)	国が研修を行う場合に優先して研修を行うべきと考える対象.....	14
(4)	国が主催してひきこもり支援の新任者を対象とした研修が行われる 場合に希望する開催方法.....	15
(5)	集合研修やオンラインでのライブ配信が実施されると良いと考える 時期.....	16
(6)	集合研修やオンラインでのライブ配信を実施する場合に参加しやす い曜日（初任者研修を想定）.....	16
(7)	集合研修等を実施する場合に参加しやすい時間帯.....	17
(8)	プログラム全体の所要時間として希望する時間数.....	17
(9)	希望の開催頻度.....	18
(10)	研修プログラムの試行実施への参加意向.....	19
3	アンケート調査結果から得られた研修カリキュラムや研修プログラム検討に対する示唆.	20
第4章	研修の試行実施.....	22
1	研修の試行実施の概要.....	22
(1)	目的.....	22
(2)	方法.....	22
2	研修（試行実施）の結果.....	23
(1)	協力先：京都府脱ひきこもり支援センター.....	23
(2)	協力先：宮城県ひきこもり地域支援センター.....	26

第5章	研修カリキュラム及びプログラムの作成.....	29
1	研修カリキュラム及びプログラム作成の前提.....	29
2	研修カリキュラム及びプログラム作成にあたっての議論.....	29
(1)	第1回検討委員会における主な意見.....	30
(2)	第2回検討委員会における主な意見.....	30
(3)	第3回検討委員会における主な意見.....	32
3	本事業において作成した「研修カリキュラム」.....	35
4	本事業において作成した「研修プログラム」.....	38
第6章	資料編	41
	研修教材例①～⑥	41

第1章 調査研究の事業概要

1 調査研究の背景と目的

ひきこもり地域支援センター（以下「センター」という。）は、ひきこもりに特化した相談窓口として47都道府県及び20政令指定都市に設置され、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師等の資格を有する「ひきこもり支援コーディネーター」が中心となって、専門的な相談支援等を実施している。また、センターは、地域における関係機関とのネットワークの構築や、ひきこもり支援に係る情報の幅広い提供等、地域におけるひきこもり支援の拠点としての役割も担っており、その機能のさらなる向上が求められているところである。

このセンターを含むひきこもり支援機関については、先行研究¹において、支援の対象となるひきこもり状態にある当事者や家族のおかれている状況、年代、背景等が多様であることや、ひきこもり支援機関の支援の強みや特徴、また、機関においてひきこもり相談に携わる支援者の専門性、経験、支援スキル等も多様であることが示されている。さらに、先行研究では、各ひきこもり支援機関での研修やスキルアップの制度は乏しく、個々の自主性の任せられることが多いという点が課題として挙げられている。

当調査研究事業では、そのような背景に鑑み、全てのセンターで統一的に取り組むことが可能な体系的な研修カリキュラムの検討を行った。具体的には、国が全国のセンターを対象として研修を行う場合に焦点をあて、その研修カリキュラム及び研修プログラムを検討することとした（ただし、全国のひきこもり地域支援センターで統一した活用を求める主旨で作成するものではない）。研修カリキュラムや研修プログラムを検討し、作成することにより、各センターの支援内容や職員の支援スキルを平準化し、延いては支援が必要な者に適切な支援を提供できる環境を整備することを目的とした。

2 実施内容

本調査研究事業においては、①検討委員会の設置・開催、②研修試行実施にかかる作業部会の設置・開催、③ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査、④研修の試行実施、⑤研修カリキュラム及びプログラムの作成といった5つの活動を行った。以下、番号順に活動を説明する。

¹ 国立研究開発法人国立国際医療研究センター「令和2年度社会福祉推進事業 ひきこもりの多様性とその支援手法に関する調査研究事業」

① 検討委員会の設置・開催

センターにおける支援の質の向上及び平準化を目的とした職員の養成手法に関して専門的な知見に基づく検討・助言等を受けるために、医学的観点、福祉的（心理・社会的）観点、当事者からの観点、それぞれにおける専門性を有する8名をメンバーとする検討委員会を設置し、検討委員会を4回開催した。

検討委員会では、センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査の調査項目や集計結果、研修カリキュラム案及び研修プログラム案の作成、研修の試行実施の方法、研修の試行実施を受けた研修カリキュラム案等の改定等について議論・検討を行った。

② 研修試行実施にかかる作業部会の設置・開催

本事業において研修を試行的に実施するために、支援の姿勢（当事者・家族の立場から）、アセスメント、社会資源、発達障害等の専門性を有する6名をメンバーとする研修試行実施にかかる作業部会を設置し、開催した。

作業部会では、講義内容の検討や研修教材の作成、実際の講義、講義後の質疑への対応等を行った。

③ ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査

センターにおける支援の質の向上や標準化を目指す上で必要と考える研修の内容及び研修の実施方法等のニーズを把握することを目的に、全国のセンターを対象としたアンケート調査を実施した。

調査はインターネット調査の方法で実施し、対象とした全国のセンター70所のうち、67所からの回答を得た（回収率95.7%）。調査結果は、「第3章 ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査」を参照されたい。

④ 研修の試行実施

国が実施するひきこもり支援担当者を対象とした研修に焦点を当て、そのカリキュラム及びプログラムを検討する際の参考情報を得ることを目的に、2カ所のセンターに協力を依頼し、研修の試行実施を、オンライン会議形式にて実施した。

試行実施には、協力先のセンター及び近隣のセンターに所属する職員が参加した。研修の試行実施の結果は、「第4章 研修の試行実施」を参照されたい。

⑤ 研修カリキュラム及びプログラムの作成

当事業における検討委員会での議論、ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査、研修の試行実施をふまえ、国が全国のセンターを対象

として行う場合を想定した研修カリキュラム及びプログラムを作成した。研修カリキュラム及び研修プログラムの詳細は、「第5章 研修カリキュラム及びプログラムの作成」を参照されたい。

第2章 検討委員会及び研修試行実施にかかる作業部会の開催

1 検討委員会

(1) 検討委員会設置の目的と委員構成

センターにおける支援の質の向上及び平準化を目的とした職員の養成手法に関して専門的な知見に基づく検討・助言等を受けることを目的として、医学的観点、福祉的（心理・社会的）観点、当事者からの観点、それぞれにおける専門性を有する8名をメンバーとする検討委員会を設置した。検討委員会の委員名簿を以下に掲載する。

図表 1 検討委員会委員名簿（敬称略（委員は五十音順））

＜委員＞	
朝日 雅也（委員長）	公立大学法人埼玉県立大学 保健医療福祉学部社会福祉子ども学科教授
伊藤 正俊	特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 共同代表
宇佐美 政英	国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院 子どものこころ総合診療センター長 児童精神科診療科長
江口 昌克	静岡大学学術院人文社会科学領域 教授
門田 光司	久留米大学文学部 教授
近藤 直司	大正大学心理社会学部臨床心理学科 教授
林 恭子	一般社団法人ひきこもりUX会議 代表理事
山崎 正雄	高知県立精神保健福祉センター（高知県ひきこもり地域支援センター）所長 ※第2回～第4回の検討委員会に参加。
＜オブザーバー＞	
厚生労働省	社会・援護局地域福祉課
＜事務局＞	
有限責任監査法人トーマツ	

(2) 検討委員会の開催概要

本事業においては検討委員会を4回開催し、センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査の調査項目や集計結果、研修カリキュラム案及び研修プログラム案の作成、研修の試行実施の方法、研修の試行実施を受けた研修カリキュラム案等の改定、報告書の内容等について議論・検討を行った。検討委員会の開催日程及び各回の議事を以下に掲載する。

図表 2 検討委員会の開催概要

第1回検討委員会

○日程：2021年9月13日（月） 18:00～20:00（オンライン会議形式）

○議題：

- ・ 開会挨拶
- ・ 検討委員会委員紹介
- ・ 事業概要及びスケジュールについて
- ・ ひきこもり地域支援センターに関する情報共有
- ・ 厚生労働省データを基にした情報共有
- ・ 先行研究の結果共有(令和2年度社会福祉推進事業「ひきこもりの多様性と
その支援手法に関する調査研究事業」)
- ・ 本事業の成果物について
- ・ ひきこもり地域支援センターに関する意見交換
- ・ アンケート調査について

第2回検討委員会

○日程：2021年12月1日（水） 18:00～20:00（オンライン会議形式）

○議題：

- ・ 検討委員会委員紹介
- ・ 国が来年度実施する研修の大枠について
- ・ 本日のゴールと今後の流れ
- ・ アンケート調査結果について
- ・ 研修カリキュラムについて
- ・ 研修の試行実施について

第3回検討委員会

○日程：2022年3月4日（金） 18:00～20:00（オンライン会議形式）

○議題：

- ・ 研修(試行実施)についての報告
- ・ 研修カリキュラムについて
- ・ 研修プログラムについて
- ・ 報告書(骨子)について

第4回検討委員会

○日程：2022年3月18日（金）～3月24日（木）（文書審議）

○議題：

- ・ 報告書の内容について

2 研修試行実施に係る作業部会

(1) 研修試行実施に係る作業部会設置の目的と委員構成

本事業において研修を試行的に実施するために、支援の姿勢(当事者・家族の立場から)、アセスメント、社会資源、発達障害等の専門性を有する6名をメンバーとする研修試行実施にかかる作業部会を設置した。作業部会の委員名簿を以下に掲載する。

図表 3 研修試行実施に係る作業部会委員名簿（敬称略（委員は五十音順））

<委員>

伊藤 正俊

特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会
共同代表

宇佐美 政英

国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院
子どものこころ総合診療センター長 児童精神科診療科長

江口 昌克

静岡大学大学院人文社会科学領域
教授

門田 光司

久留米大学文学部
教授

近藤 直司

大正大学心理社会学部臨床心理学科
教授

林 恭子

一般社団法人ひきこもりUX会議
代表理事

<オブザーバー>

厚生労働省

社会・援護局地域福祉課

<事務局>

有限責任監査法人トーマツ

(2) 研修試行実施に係る作業部会の開催概要

作業部会では、講義内容の検討や研修教材の作成、実際の講義、講義後の質疑への対応等を行った。

作業部会の開催日程及び各回の実施内容を以下に掲載する。

図表 4 研修試行実施に係る作業部会の開催概要

第1回作業部会

○日程：2021年12月22日（水）～2022年2月3日（木）（文書審議）

○実施内容：

- ・ 研修日程の調整
- ・ 講義内容の検討
- ・ 研修教材の作成 等

第2回作業部会

○日程：2022年2月4日（金） 13:00～17:00 もしくは、
2022年2月8日（火） 13:00～17:00 （いずれもオンライン会議形式）

※委員により参加日時が異なる。詳細は「第4章 研修の試行実施」を参照されたい。

○実施内容：

- ・ 研修における講義
- ・ 講義実施後の質疑応答 等

第3章 ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査

1 アンケート調査概要

(1) 目的

センターにおける支援の質の向上や標準化を目指す上で必要と考える研修の内容や研修の実施方法等のニーズを把握することを目的として実施した。

(2) 方法

インターネット調査により実施した。具体的には、対象となるセンターに対して、①本事業の概要と調査の目的、②調査回答用のインターネット画面 URL と二次元バーコード、③インターネット画面にログインするための ID・パスワード、④調査期間、⑤問い合わせ先を記した依頼状を郵送し、インターネット上での回答を求めた。

(3) 対象

全国のひきこもり地域支援センター70所²に対して、センター職員の意見を可能な範囲で広く収集した上で回答いただくように依頼した。

(4) 調査の実施時期

2021年10月14日(木)～2021年11月12日(金)

(5) 調査内容

アンケート調査では、①ひきこもり地域支援センターにおいて支援を担当する方(新任者等)に対して実施すると有意義であるとする研修内容、②国が研修を行う場合に、優先して研修を行うべきと考える対象、参加しやすい研修の開催方法、③参加しやすい研修の開催方法、④試行実施への参加意向、⑤研修の教材例、⑥基本情報といった内容の質問を設けた。具体的なアンケート調査項目を以下に示す。

² 全都道府県・指定都市に所在するセンターのうち サテライト/分室を除く 67 所に、サテライト/分室か否かの判断がつかなかった 3 所(堺市、広島市、福岡市)を加えた計 70 所を対象とした。

図表 5 アンケート調査項目

<p>① ひきこもり地域支援センターにおいて支援を担当する方（新任者等）に対して実施すると有意義であると考えられる研修内容</p>	<p>Q1 (FA) Q2 (FA)</p>	<p>日頃の支援を通し、新任の支援担当者が困難と感じる点や、習得すべきと感じる点などを踏まえて、研修に盛り込まれると良いと考える内容を自由に回答してください。（内容別に優先度の高い順に5つまで）</p> <p>今後、貴センターが主催し、所在する都道府県下の市区町村に向けて研修を行うことを想定した場合、国から共有されると良いと考える内容（研修プログラムや教材等）はどのようなものですか。内容別に自由に回答してください。（内容別に優先度の高い順に5つまで）</p>
<p>② 国が研修を行う場合に、優先して研修を行うべきと考える対象</p>	<p>Q3 (SA)</p>	<p>国（厚生労働省）が研修を行う場合に、新任者向けの研修以外に、優先して研修を行うべきと考える対象があれば教えてください。</p>
<p>③ 参加しやすい研修の開催方法</p>	<p>Q4 (MA) Q5 (MA) Q6 (MA) Q7 (MA) Q8 (SA) Q9 (SA)</p>	<p>国（厚生労働省）が主催し、ひきこもり支援の新任者（新しくひきこもり支援を担当することになった方）を対象とした研修が行われる場合、どのような方法での開催を希望しますか。</p> <p>ひきこもり支援の初任者研修を行うにあたって、研修の性格や業務の都合等を踏まえ、集合研修やオンラインでのライブ配信が実施されると良いと考える時期を教えてください。</p> <p>ひきこもり支援の初任者研修を行うにあたって、集合研修やオンラインでのライブ配信を実施する場合に参加しやすい曜日を教えてください。</p> <p>ひきこもり支援の初任者研修を行うにあたって、集合研修やオンラインでのライブ配信を実施する場合に参加しやすい時間帯を教えてください。</p> <p>ひきこもり支援の初任者研修を行うにあたって、研修プログラム全体の所要時間として希望する時間数（日数）を教えてください。</p> <p>ひきこもり支援の初任者研修を行うにあたって、開催頻度として希望するものを教えてください。</p>
<p>④ 試行実施への参加意向</p>	<p>Q10 (SA)</p>	<p>本事業では本アンケートの内容等を踏まえてパイロット版研修カリキュラム等を作成し、2022年1月～2月頃を目途に試行的に試行的に研修プログラムを実施する予定です。当該試行実施への参加意向をお聞かせください。</p>
<p>⑤ 研修の教材例</p>	<p>Q11 (SA)</p>	<p>貴センターにおいて実施する研修の教材のうち、本事業で参考にさせていただくために提供可能な教材はありますか（提供可能なものがあると回答いただいた場合、別途、本事業事務局より連絡をさせていただきます）。</p>
<p>⑥ 基本情報</p>	<p>Q12 (FA) Q13 (SA) Q14 (FA)</p>	<p>ひきこもり地域支援センター名称</p> <p>ひきこもり地域支援センターのサテライトの有無</p> <p>照会先</p>

【凡例】 SA:単数回答、MA:複数回答、FA:自由回答

(6) 回収結果

67 件の回答を得た（回収率 95.7%）。

2 アンケート調査結果

(1) 研修に盛り込まれると良いと考える内容（新任の支援担当者を想定）

日頃の支援を通し、新任の支援担当者が困難と感じる点や、習得すべきと感じる点などを踏まえて、研修に盛り込まれると良いと考える内容について自由記述式の質問で尋ね、内容別に優先度の高い順に 5 つまで回答を求めた（Q1）。

その結果、全体として、217 件の自由記述式回答が得られた（優先度 1 位として 67 件、2 位として 60 件、3 位として 44 件、4 位として 29 件、5 位として 17 件の回答が得られた）。

この 217 件の回答について、記述内容を確認して分類した³結果、全体としては、「④支援の流れと内容に関する知識」（22.1%）及び「⑦社会福祉の援助技術に関する知識（支援手法等）」（22.1%）に分類される記述内容が最も多く、次いで「①『ひきこもり』についての基本的な理解」（18.4%）に分類される記述内容が多かった。

優先度が最も高いもの（第 1 優先）として記述された内容に目を向けると、「①『ひきこもり』についての基本的な理解」（47.8%）に分類される記述内容が最も多く、次いで「④支援の流れと内容に関する知識」（32.8%）、「②ひきこもり当事者や家族に対する基本的な理解・向き合う際の視点」（29.9%）に分類される記述内容が多い結果となった。

これらから、新任の支援担当者にとって必要と思われる研修の内容は多岐に渡るものの、「ひきこもり」についての基本的な理解や当事者及び家族に対する基本的な理解、支援の流れや内容の基礎知識といった、支援の根幹をなし、足元を固めるような事項に関する研修のニーズが比較的高いことが考えられた。

³ 分類は次の手順で行った：① 1 人目の作業者が分類を試行して 16 種類のカテゴリーを設定したのち、1 つ 1 つの記述内容を見直し、該当するカテゴリーに分類した（該当するカテゴリーは必ずしも一つではなく、当てはまるものはすべてに分類することとした）。② 2 人目の作業者が、1 人目の作業者の分類を点検し、分類の一致しない回答をチェックした。③ 1 人目の作業者と 2 人目の作業者が、分類の一致しない回答について話し合い、分類を確定させた。

図表 6 研修に盛り込まれると良いと考える内容（新任の支援担当者を想定）

	カテゴリー	全体 N=217	優先順位別				
			第1 優先 N=67	第2 優先 N=60	第3 優先 N=44	第4 優先 N=29	第5 優先 N=17
支援者としての基本姿勢に関するもの	①「ひきこもり」についての基本的な理解	18.4%	47.8%	5.0%	0.0%	13.8%	5.9%
	②ひきこもり当事者や家族に対する基本的な理解・向き合う際の視点	14.3%	29.9%	8.3%	6.8%	10.3%	0.0%
	③支援者としての姿勢	10.6%	26.9%	3.3%	4.5%	3.4%	0.0%
支援にかかる基礎知識に関するもの	④支援の流れと内容に関する知識	22.1%	32.8%	31.7%	4.5%	13.8%	5.9%
	⑤医学的側面に関する知識	12.9%	6.0%	25.0%	13.6%	6.9%	5.9%
	⑥心理的側面に関する知識	6.5%	3.0%	15.0%	4.5%	3.4%	0.0%
	⑦社会福祉の援助技術に関する知識（支援手法等）	22.1%	16.4%	28.3%	29.5%	6.9%	29.4%
	⑧相談支援（電話相談・SNS相談）や居場所づくりなど支援メニューごとの実施方法	14.3%	10.4%	20.0%	9.1%	20.7%	11.8%
	⑨支援者へのスーパービジョンに関する知識	2.8%	3.0%	1.7%	2.3%	6.9%	0.0%
	⑩国の施策や予算など政策動向	5.5%	3.0%	8.3%	6.8%	3.4%	5.9%
事例共有や事例検討に関するもの	⑪対応が難しいと感じるケースの支援事例の共有や検討	9.7%	6.0%	8.3%	15.9%	13.8%	5.9%
	⑫対応する頻度の高いケースの支援事例の共有や検討	3.2%	3.0%	0.0%	4.5%	6.9%	5.9%
	⑬多機関連携、重層的支援事例の共有や検討	6.5%	4.5%	5.0%	11.4%	3.4%	11.8%
	⑭事例共有、事例検討	9.2%	6.0%	8.3%	13.6%	6.9%	17.6%
支援者同士の交流会に関するもの	⑮他のひきこもり地域支援センター職員とのネットワークづくり	4.6%	3.0%	0.0%	4.5%	13.8%	11.8%
養成・地域づくりに関するもの	⑯養成・地域づくり	1.8%	0.0%	0.0%	4.5%	3.4%	5.9%

※1 一つの記述内容で複数のカテゴリーの要素が含まれている場合、それぞれのカテゴリーでカウントしている。

※2 列ごとに、上位3項目をハイライトしている。

16のカテゴリーに分類された記述内容の例を以下に示す。

図表 7 カテゴリーごとの主な記述内容（研修に盛り込まれると良いと考える内容（新任の支援担当者を想定））

	カテゴリー	主な記述内容
支援者としての基本姿勢に関するもの	①「ひきこもり」についての基本的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりの基本的な理解と支援の方向について ひきこもりの原因となるものとは。ひきこもりの解決とはどういうことか
	②ひきこもり当事者や家族に対する基本的な理解・向き合う際の視点	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもり本人や家族の体験発表を通して理解を深める 引きこもっている人をどのように見るか、その視点を考える
	③支援者としての姿勢	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を聴く時の支援者としての在り方 長期支援にかかわる基本姿勢の在り方
支援にかかる基礎知識に関するもの	④支援の流れと内容に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりの支援過程とその内容に関する知識 ひきこもりからの回復の過程、支援の段階について
	⑤医学的側面に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害、精神障害に関する理解、ポイント 精神疾患や発達障害に関する基礎知識
	⑥心理的側面に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> 心理的側面に対する知識 心理的な支援でできることとは
	⑦社会福祉の援助技術に関する知識（支援手法等）	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもり支援で活用される福祉資源について 地域の関係機関の存在や機能等を知る
	⑧相談支援（電話相談・SNS相談）や居場所づくりなど支援メニューごとの実施方法	<ul style="list-style-type: none"> SNSの活用等、新たな取り組みをしている活動について知る 居場所支援に関する知識
	⑨支援者へのスーパービジョンに関する知識	<ul style="list-style-type: none"> 難しい相談を相談員が抱え込むことも少なくない。どう共有し、相談員が負担なくいられるかを学ぶ スーパービジョンに関する知識
	⑩国の施策や予算など政策動向	<ul style="list-style-type: none"> 国の施策の動向とこれまでの変遷 国の施策や予算などの政策動向。
事例共有や事例検討に関するもの	⑪対応が難しいと感じるケースの支援事例の共有や検討	<ul style="list-style-type: none"> 対応が難しいと感じるケース 困難事例に対する事前準備
	⑫対応する頻度の高いケースの支援事例の共有や検討	<ul style="list-style-type: none"> よく対応しがちな事例の検討 対応する頻度の高いケースなど支援事例の共有や検討
	⑬多機関連携、重層的支援事例の共有や検討	<ul style="list-style-type: none"> 市町村、政令市の支援ネットワークの作り方 重層的支援におけるひきこもり支援の在り方
	⑭事例共有、事例検討	<ul style="list-style-type: none"> 事例紹介と支援のヒント 相談対応の具体的な事例の検討
支援者同士の交流会に関するもの	⑮他のひきこもり地域支援センター職員とのネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> 他のセンター職員とのネットワークづくり 各地の支援者同士が悩みや課題に思っていることを共有し、共感し合うこと
養成・地域づくりに関するもの	⑯養成・地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりサポーターの具体的な養成について プラットフォームの作り方と活用方法、地域の動きについて

(2) 市区町村に向けて研修を行うことを想定した場合、国から共有されると良いと考える内容

センターが主催し、所在する都道府県下の市区町村に向けて研修を行うことを想定した場合、国から共有されると良いと考える内容（研修プログラムや教材等）について自

由記述式の質問で尋ね、内容別に優先度の高い順に5つまで回答を求めた(Q2)。

その結果、全体として、194件の自由記述式回答が得られた(優先度1位として64件、2位として53件、3位として40件、4位として23件、5位として14件の回答が得られた)。

この194件の回答について、Q1と同様の方法で記述内容を確認して分類した結果、全体としては、「④支援の流れと内容に関する知識(支援一般)」(18.0%)に分類される記述内容が最も多く、次いで「⑩各種事例共有・ネットワークづくり」(16.0%)、「⑦社会福祉の援助技術に関する知識(支援手法等)」(13.4%)の順に分類される記述内容が多かった。

優先度が最も高いもの(第1優先)として記述された内容に目を向けると、「①『ひきこもり』についての基本的な理解」(20.3%)に分類される記述内容が最も多く、次いで「⑨国の施策や予算など政策動向」(17.2%)、「④支援の流れと内容に関する知識」(15.6%)の順に分類される記述内容が多い結果となった。

これらから、センターが主催し、市区町村に向けて研修を行うことを想定した場合、国から共有されると良いと考える内容については、支援の流れや内容の基礎知識やひきこもりについての基本的な理解など、新任の支援担当者にとって必要と思われる研修として回答割合が高かった事項に加え、国の施策や予算などの政策動向やネットワークづくりといった、センターが地域の支援拠点としての役割を担う上で重要な事項についてもニーズが比較的高いことが考えられた。

図表 8 市区町村に向けて研修を行うことを想定した場合、国から共有されると良いと考える内容

カテゴリー	全体 N=194	優先順位別				
		第1 優先 N=64	第2 優先 N=53	第3 優先 N=40	第4 優先 N=23	第5 優先 N=14
		①「ひきこもり」についての基本的な理解	10.3%	20.3%	7.5%	2.5%
②ひきこもり当事者や家族に対する基本的な理解・向き合う際の視点	4.6%	3.1%	9.4%	2.5%	4.3%	0.0%
③支援者としての姿勢	5.2%	6.3%	9.4%	0.0%	4.3%	0.0%
④支援の流れと内容に関する知識	18.0%	15.6%	17.0%	17.5%	21.7%	28.6%
⑤医学的側面に関する知識	3.6%	0.0%	3.8%	7.5%	4.3%	7.1%
⑥心理的側面に関する知識	5.7%	3.1%	3.8%	12.5%	4.3%	7.1%
⑦社会福祉の援助技術に関する知識（支援手法等）	13.4%	6.3%	15.1%	20.0%	8.7%	28.6%
⑧相談支援（電話相談・SNS相談）や居場所づくりなど支援メニューごとの実施方法	10.3%	6.3%	15.1%	12.5%	13.0%	0.0%
⑨国の施策や予算など政策動向	9.8%	17.2%	7.5%	5.0%	4.3%	7.1%
⑩各種事例共有・ネットワークづくり	16.0%	12.5%	11.3%	22.5%	26.1%	14.3%
⑪講師リストや教材	3.1%	3.1%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%
⑫支援ツール（アセスメント様式等）	4.1%	3.1%	5.7%	7.5%	0.0%	0.0%
⑬ひきこもりサポーター養成教材	2.1%	1.6%	0.0%	2.5%	8.7%	0.0%
⑭支援マニュアル・ガイドライン（更新）・ガイドブック	3.6%	4.7%	1.9%	7.5%	0.0%	0.0%
⑮データ（実態調査等）	4.1%	9.4%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
⑯支援体制に関する工夫	3.6%	3.1%	3.8%	2.5%	8.7%	0.0%
⑰リスクマネジメント方法	1.5%	0.0%	3.8%	2.5%	0.0%	0.0%

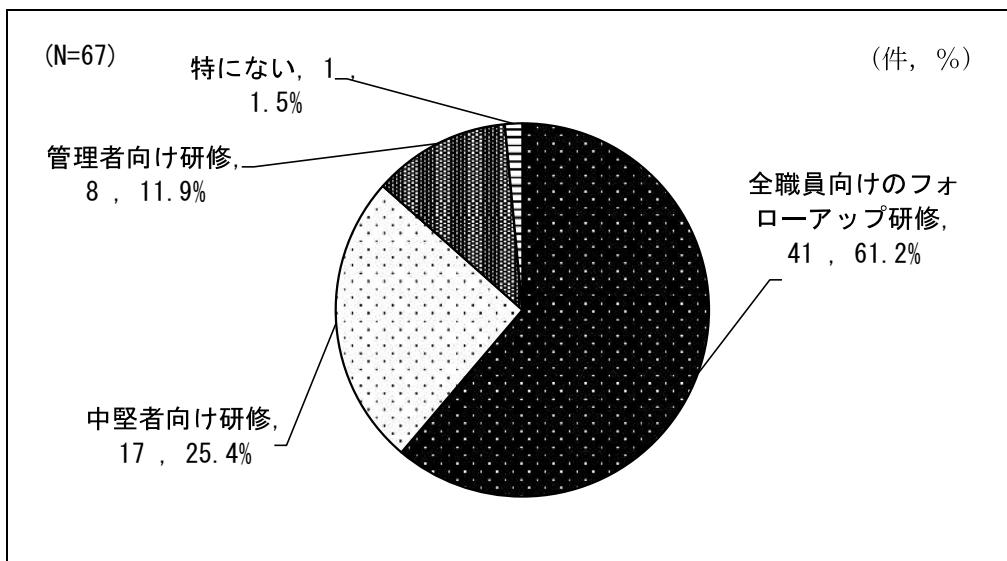
※1 一つの記述内容で複数のカテゴリーの要素が含まれている場合、それぞれのカテゴリーでカウントしている。

※2 列ごとに、上位3項目をハイライトしている。

(3) 国が研修を行う場合に優先して研修を行うべきと考える対象

国（厚生労働省）が研修を行う場合に、新任者向けの研修以外に、優先して研修を行うべきと考える研修について単純回答で尋ねたところ（Q3）、「全職員向けのフォローアップ研修」が最も多く41件（61.2%）、次いで「中堅者向け研修」が17件（25.4%）、「管理者向け研修」が8件（11.8%）であった。

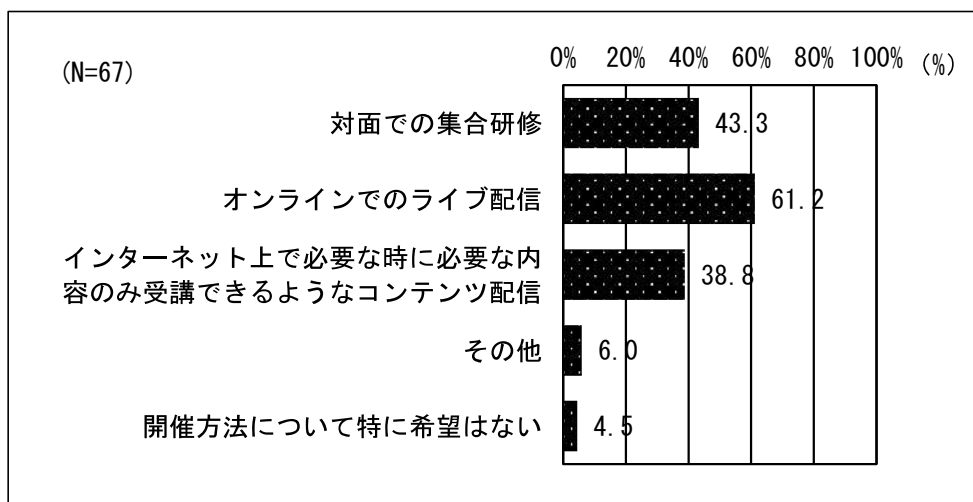
図表 9 国が研修を行う場合に優先して研修を行うべきと考える対象(新任向け研修以外)



(4) 国が主催してひきこもり支援の新任者を対象とした研修が行われる場合に希望する開催方法

国(厚生労働省)が主催し、ひきこもり支援の新任者を対象とし研修が行われる場合に希望する開催方法について複数回答で尋ねたところ(Q4)、「オンラインでのライブ配信」が最も多く41件(61.2%)、次いで「対面での集合研修」が29件(43.3%)、「インターネット上で必要な時に必要な内容のみ受講できるようなコンテンツ配信」が26件(38.8%)であった。

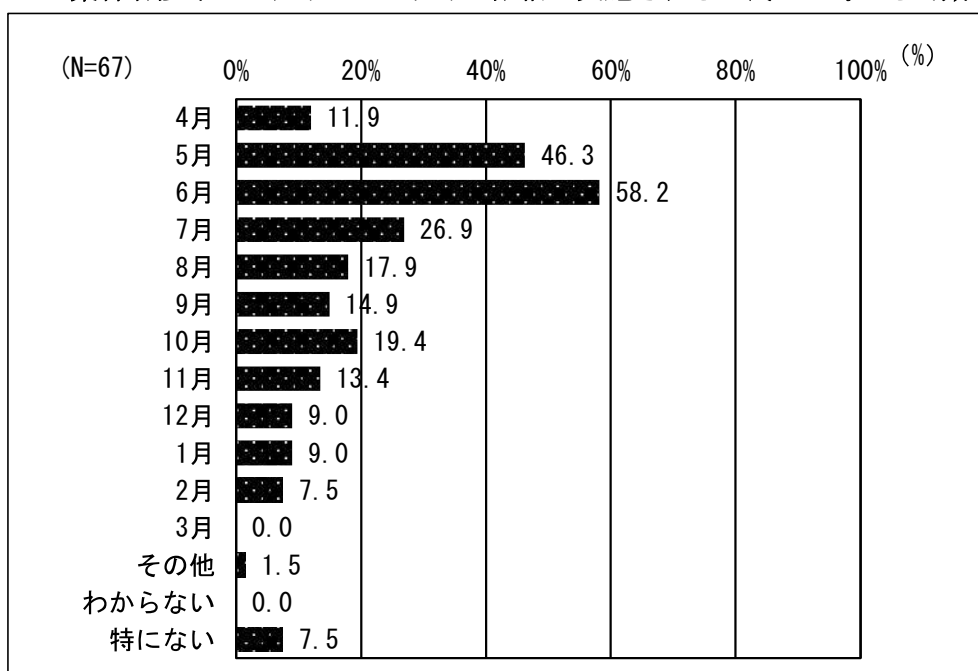
図表 10 国が主催してひきこもり支援の新任者を対象とした研修が行われる場合に希望する開催方法



(5) 集合研修やオンラインでのライブ配信が実施されると良いと考える時期

ひきこもり支援の初任者研修を行うにあたって、研修の性格や業務の都合等を踏まえ、集合研修やオンラインでのライブ配信が実施されると良いと考える時期について複数回答で尋ねたところ (Q5)、「6月」が最も多く 39 件(58.2%)、次いで「5月」が 31 件(46.3%)、「7月」が 18 件(26.9%)であった。

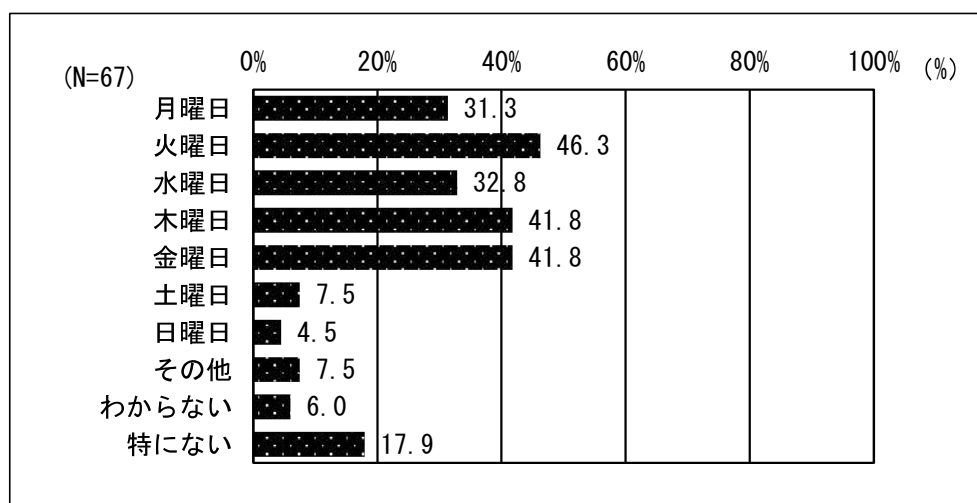
図表 11 集合研修やオンラインでのライブ配信が実施されると良いと考える時期



(6) 集合研修やオンラインでのライブ配信を実施する場合に参加しやすい曜日 (初任者研修を想定)

ひきこもり支援の初任者研修を行うにあたって、集合研修やオンラインでのライブ配信を実施する場合に参加しやすい曜日について複数回答で尋ねたところ (Q6)、「火曜日」が最も多く 31 件(46.3%)、次いで「木曜日」及び「金曜日」が 28 件(41.8%)、「水曜日」が 22 件(32.8%)であった。

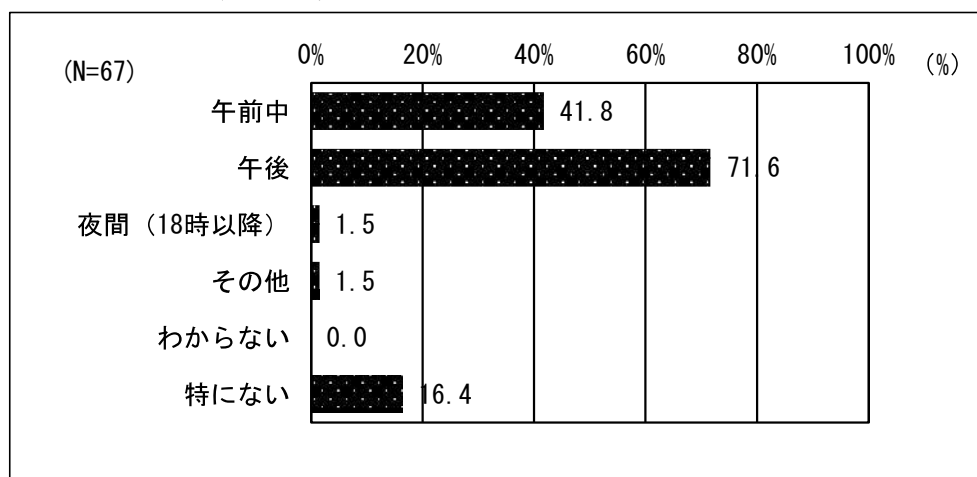
図表 12 集合研修やオンラインでのライブ配信を実施する場合に参加しやすい曜日（初任者研修を想定）



(7) 集合研修等を実施する場合に参加しやすい時間帯

集合研修等を実施する場合に参加しやすい時間帯について複数回答で尋ねたところ (Q7)、「午後」が最も多く 48 件 (71.6%)、次いで「午前中」が 28 件 (41.8%)、「特にない」が 11 件 (16.4%) であった。

図表 13 研修参加しやすい時間帯

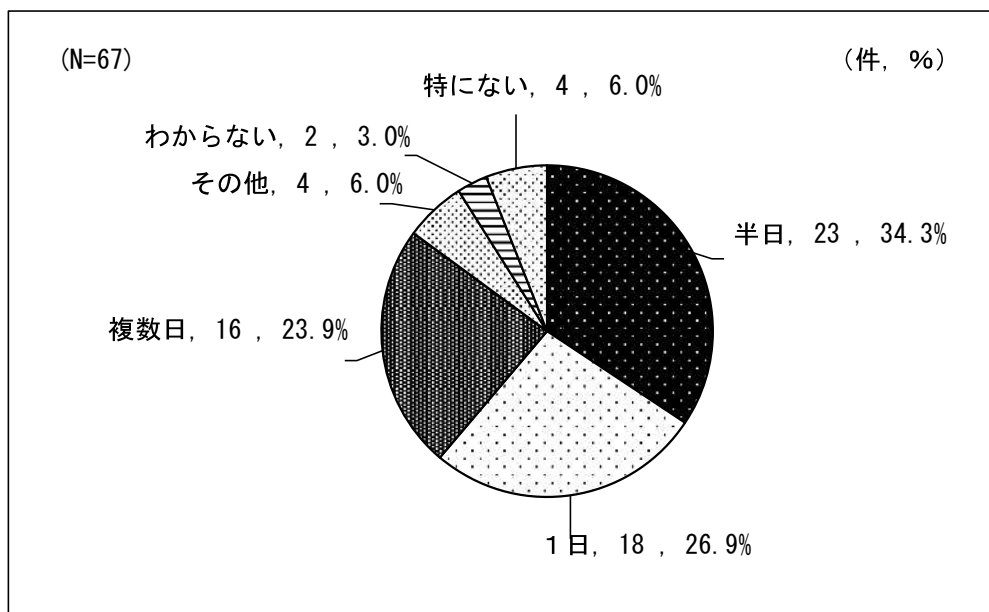


(8) プログラム全体の所要時間として希望する時間数

プログラム全体の所要時間として希望する時間数について単数回答で尋ねたところ

(Q8)、「半日」が最も多く 23 件(34.4%)、次いで「1日」が 18 件(26.9%)、「複数日」が 16 件(23.9%)であった。

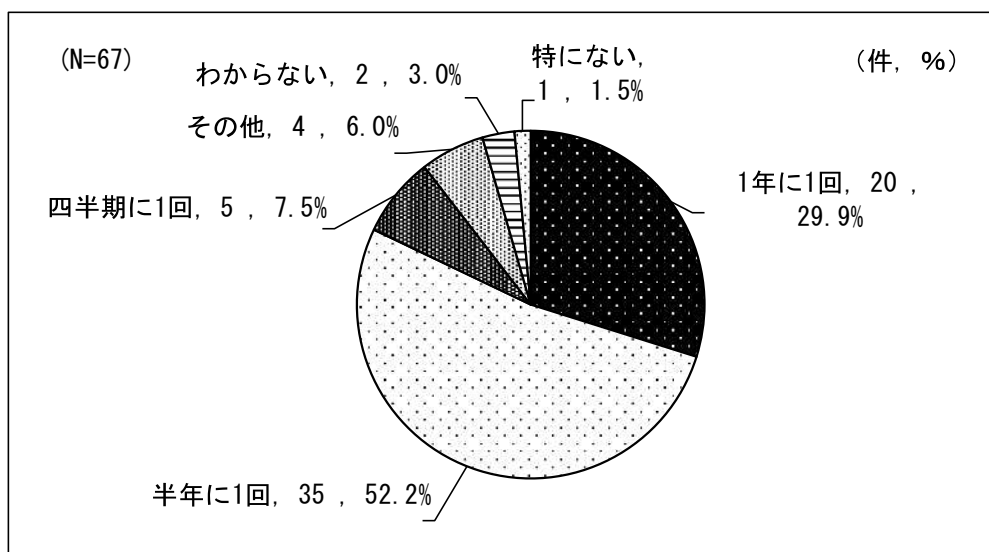
図表 14 プログラム全体の所要時間として希望する時間数



(9) 希望の開催頻度

希望の開催頻度について単数回答で尋ねたところ (Q9)、「半年に1回」が最も多く 35 件(52.2%)、次いで「1年に1回」が 20 件(29.9%)、「四半期に1回」が 5 件(7.5%)であった。

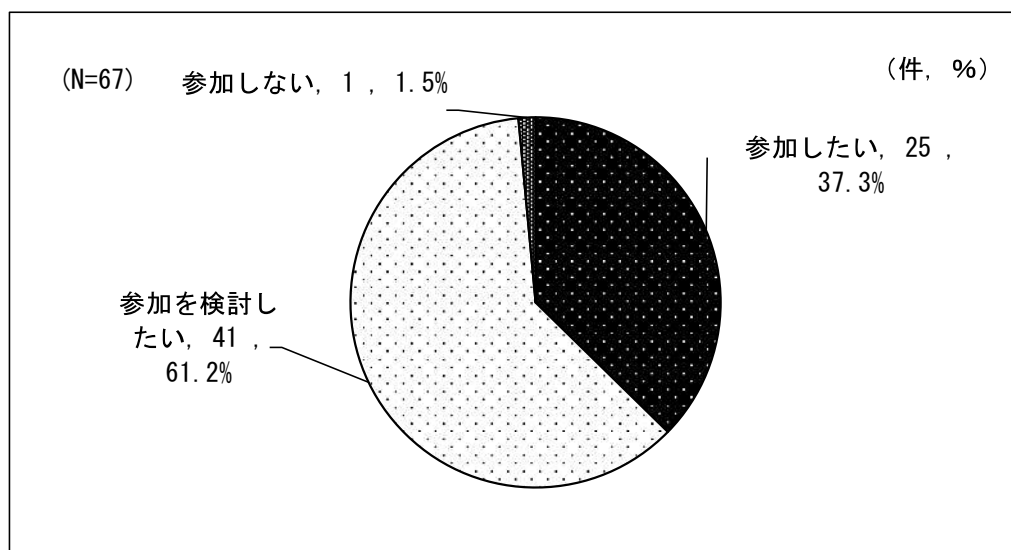
図表 15 希望する研修開催頻度



(10) 研修プログラムの試行実施への参加意向

本調査研究事業において実施する研修プログラムの試行実施への参加意向について単数回答で尋ねたところ (Q10)、「参加を検討したい」が最も多く 41 件(61.2%)、次いで「参加したい」が 25 件(37.3%)、「参加しない」が 1 件(1.5%)であった。

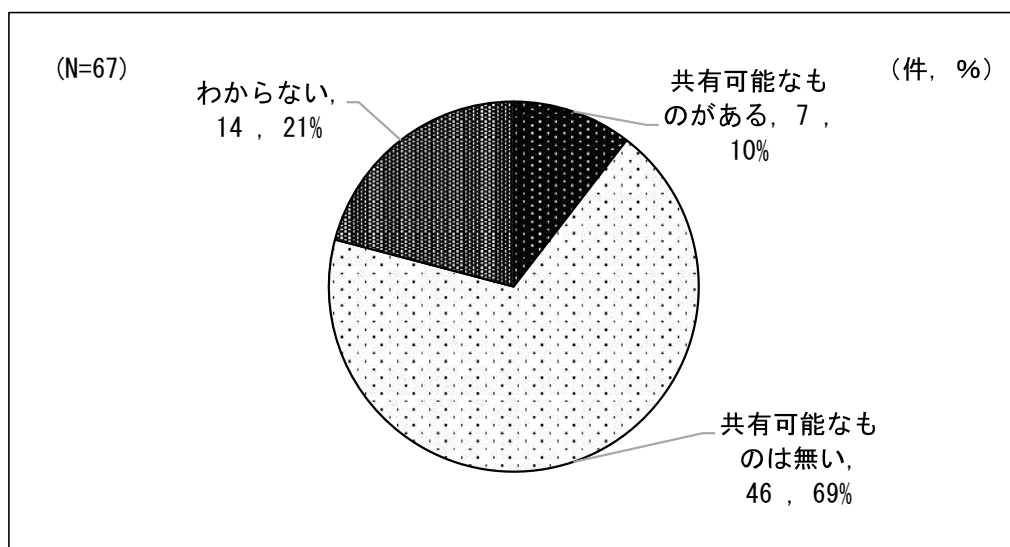
図表 16 研修プログラムの試行実施への参加意向



(1) 共有可能な教材の有無

本調査研究事業で参考にさせていただくための共有可能な教材の有無について単数回答で尋ねたところ (Q11)、「共有可能なものは無い」が最も多く 46 件(68.7%)、次いで「わからない」が 14 件(20.9%)、「共有可能なものがある」が 7 件(10.4%)であった。

図表 17 共有可能な教材の有無



3 アンケート調査結果から得られた研修カリキュラムや研修プログラム検討に対する示唆

- アンケート調査結果からは、新任の支援担当者にとって必要と思われる研修の内容は多岐に渡るが、「ひきこもり」についての基本的な理解や当事者及び家族に対する基本的な理解、支援の流れや内容の基礎知識といった、支援の根幹をなし、足元を固めるような事項に関する研修のニーズが比較的高いことが考えられた。
- 新任の支援担当者を対象とする以外で優先度が高い研修対象者としては、「全職員向けのフォローアップ研修」との回答が6割を超え、対象者として高いニーズがあることが把握できた。
- 研修の実施方法については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてか「オンラインでのライブ配信」を希望する回答が6割を超えた。他方、研修内容でも、他のセンターとの事例共有や事例検討、ネットワークづくりといったニーズが把握できた訳であるが、それらを実施する上で欠かすことのできない参加者同士のコミュニケーションが取りやすい「対面での集合研修」を希望する回答も4割を超えた。
- 開催時期は、新任の支援担当者で言えば、恐らく4月に着任する場合が多いと考えられるが、着任時期から長期間空くことのない6月に開催を望む回答が6割近く、5月に開催を望む回答が半数近くあった。
- プログラム全体の所要時間としては、「半日」、「1日」、「複数日」といった回答が得られ、ある程度まとまった時間での開催が望まれていることが伺えた。また、研修の開催頻度についても、「半年に1回」との回答が半数を超え、年に1度きりではなく、2回の開催を望む回答があった。
- 本調査研究事業において実施する研修プログラムの試行実施への参加意向につい

ては、参加しないと回答のあった1件を除き、すべての回答者が「参加したい」や
もしくは「参加を検討したい」と回答し、研修への関心の高さが伺えた。

第4章 研修の試行実施

1 研修の試行実施の概要

(1) 目的

本調査研究事業において、国が全国のセンターを対象として研修を行う場合に焦点をあて、その研修カリキュラム及び研修プログラムを検討する際の参考情報を得ることを目的として、特に初任者等（経験年数1～2年目程度を想定）を対象とした研修を、複数のセンターにおいて試行的に実施した。

(2) 方法

1) 試行実施協力依頼先（センター）の選定

本事業において実施した「ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査」の中で、研修プログラムの試行実施に関して「参加したい」と回答したセンターのうち、国立研究開発法人国立国際医療研究センター「令和2年度社会福祉推進事業 ひきこもりの多様性とその支援手法に関する調査研究事業」の調査データ⁴も参考にしながら、研修の試行実施協力依頼先として、下記の2つのセンターを選定した。

- 京都府脱ひきこもり支援センター
- 宮城県ひきこもり地域支援センター

上記の2つのセンターに研修の試行実施への協力を依頼したところ協力が得られ、研修の実施日や参加者等について協議しながら、研修の試行実施に向けて調整を行った。

なお、2つのセンターの近隣（近畿ブロック、北海道・東北ブロック）に位置するセンターのうち、本事業において実施したアンケート調査で、研修プログラムの試行実施に関して「関心がある」と回答したセンターに対しても、研修を案内した。

2) 実施時期

⁴ 本調査研究事業の検討委員会委員である宇佐美 政英氏に協力いただき、「担当者のスキルアップ」に関するデータを参照した。なお、当該データはこの目的以外に使用しない。

2つのセンターそれぞれにおいて、複数の職員が参加可能な日程として、下記日程で研修の試行実施を行った。

- 京都府脱ひきこもり支援センター：2022年2月4日（金）
- 宮城県ひきこもり地域支援センター：2022年2月8日（火）

研修の試行実施当日のプログラムは、「2 研修（試行実施）の結果」も参照されたい。

3) 実施方法

研修の試行実施は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためオンライン会議形式（Zoom 会議による）で行った。

本事業における研修カリキュラム及び研修プログラムの検討において参考にするために、研修参加者には、研修事後アンケートへの協力を依頼し、研修に関する感想等を回答いただいた。

また、試行実施協力先である2つのセンターには、研修実施後に別途時間を設けて研修に関する意見交換を実施し、研修に関する感想や、研修カリキュラム及び研修プログラムの検討に関する意見等を聴取した。

2 研修（試行実施）の結果

(1) 協力先：京都府脱ひきこもり支援センター

1) 研修実施日と参加者

2022年2月4日（金）に研修の試行実施を行った。当日は、10名（経験年数1～2年以下が6名、2～10年以下が3名、10年超が1名）が研修に参加した。

2) 試行実施における研修プログラム

研修は13時～17時の半日をかけて行った。研修プログラムは3コマの講義（各コマ60分）と質疑応答（10分）、休憩（10分）で構成し、試行実施に係る作業部会の委員を講師として招聘し実施した。研修プログラムの詳細を以下に示す。

図表 18 研修プログラム（2月4日（金）開催、協力先：京都府脱ひきこもり支援センター）

	時間	テーマ	講師
講義 1	講義 60 分 質疑応答 10 分	支援の姿勢・まなざし(当事者・家族の立場から)	伊藤 正俊 氏
休憩（10分）			
講義 2	講義 60 分 質疑応答 10 分	ひきこもり支援におけるアセスメントについて	近藤 直司 氏
休憩（10分）			
講義 3	講義 60 分 質疑応答 10 分	地域における多様な社会資源を活用した支援	門田 光司 氏

3) 研修参加者からの意見、感想

研修後に行った研修事後アンケート及び協力先センターとの意見交換において得られた、研修カリキュラム及び研修プログラムの検討に係る意見や感想を、以下に示す。

図表 19 研修カリキュラム及び研修プログラムの検討に係る意見・感想（2月4日（金）開催、協力先：京都府脱ひきこもり支援センター） ※下線は意見・感想におけるポイントとして判断したもの

<p>（講義 1 について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>当事者やその家族の意見を抜きにして支援を組み立てるのは難しいので、このような研修の中に入れてもらえたのは良かったし、重要だと思う。今後もあった方がよい内容。</u> ■ <u>当事者家族として、また、支援者としての立場の方の経験も踏まえた講義は、支援担当者の視野を広げるものであり、支援者研修の 1 項目として必要。</u> ■ <u>当事者や当事者家族の視点というのはひきこもり支援ではいつも立ち返るポイントの 1 つだと思いますので、初任者・経験者問わず、常にフォローしていきたい内容。</u> ■ <u>初任者としては当事者や家族の心情、必要としている支援に関してのお話、支援者が関わってからの変化のお話などは学びと共に、支援者の勇気づけにもなったのではないかと。フォローアップであるなら、中長期的な家族の支援や、居場所の運営に関するお話等に重点を置いていただけたらよいのではないかと。</u> <p>（講義 2 について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>アセスメントについては、地域のひきこもり支援センターが悩んでいること。このような見方ができるのかと非常に参考になった。これほどまで充実した</u>

内容を1度の講義の中でまとめていただくと、理解が追い付かない者もいるかもしれない。講義を分けて解説いただくか、支援の中で確実に押さえておくべきポイントを挙げてもらえると、初任者にとってはより理解しやすいと思う。

- 初任者でなくても困る当事者の見立てのポイントを解りやすく解説されており、初任者講習にはこうした部分は不可欠。
- レベルが高くボリュームもあったため、できるならば2～3回に分けてトピック毎に詳しく説明していただいたり、ワーク等を交えていただけるとうれしい。
- ひきこもり問題の成因要因の分類やアセスメントのポイント等、具体的で分かりやすい内容だった。支援者のフォローアップ目的として受講する内容に合致する。

(講義3について)

- ひきこもりの当事者は、福祉の領域にも医療の領域にも当てはまらないとされてしまい、地域の担当者はとても悩んでいる。支援者の中には、本来であれば地域の中で連携していかなければならないという認識が前提としてあるので、初任者向けの研修ということで有意義だが、フォローアップという位置付けであれば平易に感じるかもしれず、事例検討という形だとより良いかもしれない。
- 初任者として、ひきこもり支援の全体像や保健福祉的な支援としての位置付けなどを理解する上で良い内容。
- ひきこもり支援を実施していくための社会資源の他に仕組み等の説明があったこと及び、具体的な市町村の事例を示して講義いただいたことから理解しやすかった。
- 地域での社会資源の活用や連携について、当事者(地域)からのお話もお聞きしたいと思った。

(その他)

- 参加者の中で検討ができる場 (ワークショップのような形) は絶対に必要。
- ひきこもり支援センターの職員がどのような配置になっているのかは都道府県によって様々。例えば、行政の場合は全くひきこもり相談・支援の経験がない人も配置されることがある。業務を行うにあたって「傾聴」の姿勢が必要であるということを研修の中で示した方が良い。
- 近隣のひきこもり地域支援センターとの交流に関するニーズはある。

(2) 協力先：宮城県ひきこもり地域支援センター

1) 研修実施日と参加者

2022年2月8日(火)に研修の試行実施を行った。当日は、7名(経験年数1～2年以下が2名、2～10年以下が4名、10年超が1名)が参加した。

2) プログラム

研修は13時～17時の半日をかけて行った。研修プログラムは3コマの講義(各コマ60分)と質疑応答(10分)、休憩(10分)で構成し、試行実施に係る作業部会の委員を講師として招聘し実施した。研修プログラムの詳細を以下に示す。

図表 20 研修プログラム(2月8日(火)開催、協力先：宮城県ひきこもり地域支援センター)

	時間	テーマ	講師
講義1	講義60分 質疑応答10分	支援の姿勢・まなざし(当事者・家族の立場から)	林 恭子 氏
休憩(10分)			
講義2	講義60分 質疑応答10分	ひきこもり支援におけるアセスメントについて	江口 昌克 氏
休憩(10分)			
講義3	講義60分 質疑応答10分	発達障害の基礎	宇佐美 政英 氏

3) 研修参加者からの意見、感想

研修後に行った研修事後アンケート及び協力先センターとの意見交換において得られた、研修カリキュラム及び研修プログラムの検討に係る意見や感想を、以下に示す。

図表 21 研修カリキュラム及び研修プログラムの検討に係る意見・感想(2月8日(火)開催、協力先：宮城県ひきこもり地域支援センター) ※下線は意見・感想におけるポイントとして判断したもの

(講義1について)

- 自分がひきこもりになった経緯などの話があったが、これからひきこもり支援に取り掛かる初任者にとっては、このような話が当事者の心境などをイメージしやすく、ひきこもりに関する理解も進む。その他の内容については、フォローアップの対象者にとって、なるほどと思えるもの。

- 現場で当事者の方とコミュニケーションを取ることができないことが多く、その気持ちを少しでも理解することができる。
- 当事者としてのお話はとても貴重なものであること、統計等も含めてどのような支援が求められているのか、分かりやすく良い内容。
- どんな経過・流れがあつて、どんなことを感じながら過ごしていたか、といったお話が最初のほうにあつたが、そちらに特化した話のほうが、初任者には丁度いいのではないか。

(講義2について)

- アセスメントについての講義はひきこもり支援に必要な内容だと改めて感じた。初任者を対象とするのであれば、内容が専門的で、ハードルが高い。 / ひきこもり支援独特のアセスメントの視点があるように感じている。初任者であってもある程度の(アセスメント一般に関する)知識を持っていることになると思うので、事例を通して、様々なエピソードや視点を示してアセスメントの仕方やパターンを出してもらえると、相談現場で活かしていける。
- (初任者にとって)どのように課題を整理し、まずどのような支援を展開していくのが良いのかを考える判断基準となる情報を集める視点として必要だと感じた。(フォローアップとして)初任者でなくても、自分の支援の点検は必要であると感じている。
- 実際のひきこもりの事例があればより良かった。
- 当事者が来ないまま、親面接から始まり、かつ継続的に関わることで家族の変化を促していく、というのが、ひきこもり支援の肝であり難しさあるように思うが、そんな支援にとつきやすくするためには、初回面接から継続して会い続けていくための「家族のアセスメントと対応」といった具体的な研修内容が、初任者研修としては適当なのではないか。

(講義3について)

- 応用編で新しい情報もあり、個人的にはとても興味深かったが、ひきこもりの研修の中に発達障害の話を組み込むとしたらレベルが高い。 / 発達障害の内容を組み込むのであれば、フォローアップ研修などの応用編の方がより適している。 / 発達障害があつてこだわりが強いような方たちを支援に乘せるためにはどのような関わりが必要なのかということを解説してもらえると良い。
- 専門用語が出てくることはあつたが、基礎的な知識として、また、心構えとしては必要な内容。 関わり方のポイントについてのお話があつたことは、実践的な内容だと感じたし、とても勉強になった。